

第6分科会 第2会場

「共同組織の“わ”を強め、
あらたな担い手を広げるとりくみ」

第一セントラルビル1号館 3F 中ホール

演題番号 6-2-1

県連名	所属共同組織名又は事業所名	
東京	足立健康友の会北千住支部	
発表者氏名	所属と役職	分科会番号
ホンマ レイコ 本間 玲子	副支部長	第6分科会

発表テーマ
コロナ禍を乗り越えたサークル活動と新たなとりくみ

内容（発言要旨）

北千住支部は、健和会発祥の地ともいえる柳原地域の方が中心で活動地域内には東都協議会の柳原病院や柳原リハビリテーション病院、健愛クリニック、老健千寿の郷や歯科、薬局など事業所も多く、他の支部に比べると恵まれた環境にあります。

北千住支部では現在、「セラバンド体操」「健康麻雀」「カラオケ」「輪投げ」の4つのサークルやボランティアなどが恒常的に活動を行なっています。このうちコロナ禍で「健康麻雀」「カラオケ」サークルは一時休止を余儀なくされましたが、新型コロナウイルスが5類に移行された後の2023年～24年初めに再開しました。一方でコロナ禍に生まれたサークルもあります。2021年7月に東京都に4回目の「緊急事態宣言」が出されたのを契機に会員の閉じこもりを心配した役員が、密にならない競技として「輪投げ」を提起し、今では他支部にもサークルが生まれ、支部対抗戦を夢想できるようになりました（「輪投げ」サークルは『いつでも元気』2023年7月号で紹介されました）。サークルを通じて会員拡大も進み、「セラバンド体操」や「輪投げ」では、『いつでも元気』の読み合わせも行ない読者も増えています。

また、2022年8月から毎週月曜に柳原リハ病院セラピストの指導で「あおぞら健康体操」を実施しています。友の会と協力関係にあるNPOたんばほ会のテキストアウト弁当利用者の方を対象に弁当を待つ間を利用して体操をしてもらおうと始めたもので晴天時は病院前の公園に「足立健康友の会」の旗を立て、雨天や猛暑時は屋内で行なっています。北千住支部の会員さんが中心ですが、どなたでも参加自由で患者さんや買い物中、散歩中の方も足を止めて参加しています。これらの、さまざまなとりくみを通じて、地域での「足立健康友の会」の認知度を高め、「安心して住み続けられるまちづくり」とともにすすめる仲間を増やしていきたいと思えます。

所属している組織の概要	
足立区は人口69.5万人、高齢化率24.9%（23区でトップ）。足立健康友の会（会員4,767人、うち北千住支部1,016人）は4つの支部（北千住・千住西・北地域・かばら）で構成、日常的には支部を中心に活動している。	
TEL 03-3870-4534	メール masahiko-z000153@totokyogikai.jp

演題番号 6-2-2

県連名	所属共同組織名又は事業所名	
東京	三多摩健康友の会 昭島支部	
発表者氏名	所属と役職	分科会番号
アガバメ キミコ 赤羽目喜美子、 カワムラ カズコ 河村 和子、 サトウ シズカ 佐藤 静香	保健委員会	第6分科会

発表テーマ
5年前2ヶ所だったサークルが、コロナ禍を経て10ヶ所に広がった私たちの取り組み

内容（発言要旨）

1) 歴史ある支部ですが、2019年の保健活動は役員が健康チェックを行う活動が主で、サークルは2ヶ所に減ってしまいました。役員の数・保健委員を増やし、現在は9人となりました。新しい委員が「日頃交流のある団地の方々と健康づくりの集まりをしたいと思っていた」「空白の地区に友の会の集まりを作りたい」などサークルが立ち上がって行きました。並行して市内3ブロックごとに役員が分かれて地域にサークルが根付くよう企画やお知らせ、当日の運営などきめ細かに相談しました。現在（2024年3月）、サークルは10ヶ所になりました。

2) 田中団地のサークルができるまで（略）

3) ここまで広がった要因をを振り返る

- ①役員・保健委員が自分の周りにやってみたかった健康づくりの集まりを開き、自身の喜びになっている。
- ②立ち上げには他のサークルの経験や役員同士の応援がある。
- ③会員の近く、歩いて行かれる場所の小規模サークルがいい。
- ④サークルには役員の他、サポートしてくれる会員がいる。
- ⑤本部作成の感染対策5つのポイントを毎回チェックして行った。

所属している組織の概要	
東京都昭島市人口約11万、友の会会員約2300人（三多摩健康友の会：11支部 会員数約25,000人）	
TEL 090-4059-2049	メール osizu_sato@icloud.com

演題番号 6-2-3

県連名	所属共同組織名又は事業所名	
佐賀	本部	
発表者氏名	所属と役職	分科会番号
コダマ 拓也 見玉 拓也	組織部副主任	第6分科会

発表テーマ		
共同組織活動 再起の取り組み		

内容（発言要旨）

2023年度の活動は、コロナ禍を経ておとしまでのところで班会をはじめ組織活動はめっきり減ってしまいました。昨年度はコロナ禍を過ぎてどのように盛り上げていくかが課題となっていました。そこで、倉敷医療生協の取り組みに学びたいと思い、早川副理事に来ていただき、コロナ禍での班会活動の取り組みについて学びました。その後、強化月間では多久・小城支部ではあまり動けていなかった班に声をかけ合同班会を開催した他、唐津支部でも数年ぶりに健康まつりを開催しました。他支部でも、工夫を凝らして企画を行いました。仲間増やしや出資金は昨年の実績には届きませんでしたが、班会の回数を増やすことができました。今年は、班会の回数を増やすとともにその中で加入・増資に努めていきます。また、今年は九州沖縄ブロック組合員交流集会を佐賀で行います。成功へ向けて、頑張っていきます。

所属している組織の概要	
活動地域は、佐賀県。活動地域の人口は約79万人。所属する共同組織の人数は約13,600人。活動する支部が10支部ある。	
TEL 0952-31-1249	メール t-kodama@saga-iryous.or.jp

演題番号 6-2-4

県連名	所属共同組織名又は事業所名	
大阪	医療福祉生協おおさか 支部センター なかよしハウス	
発表者氏名	所属と役職	分科会番号
ホリ 金光 堀 金光	支部運営委員	第6分科会

発表テーマ		
なかよしハウスと上田さんとの協働 2023年		

内容（発言要旨）

なかよしハウスが2023年5月に実施したバザーの時に、永和の方で活動されている方が、友人とともに来店されました。なかよしハウスの活動の様子などについて話すと、一緒に何かやりましょうということになって、同年7月に①歯科衛生士による「健康な身体はまずは『健口』から!!」というテーマで、8月には②『『カルタ』フレイル・ロコモ克服』というテーマで、そして今年3月には、近くの公園で、③「昔遊び会」を開催しました。

それぞれ、多くの参加者を得て、好評でした。8月の取り組みでは、近くの大阪樟蔭女子大学の健康栄養学科の井尻吉信教授ゼミの学生が、コロナフレイル予防のために開発した「フレイル予防かるた」を使ってのグループワーク、そして今年3月の「昔遊び会」では、こままわしや、おじゃみなど多くの子供が楽しみました。これらの活動は、コミュニティナースの上田エリカさんとの繋がりと連携によって初めて可能になったものであり、地域における横のつながりの大切さを痛感しているところです。

所属している組織の概要	
定款地域は東大阪市、八尾市、柏原市、大東市、四條畷市並びに大阪府下全域。組合員数は180,686人 出資金は4,095,307,000円（2024年3月31日時点）	
TEL 090-1714-1966 (対応者：能塚)	メール no_zu@yahoo.co.jp (対応者：能塚)

演題番号 6-2-5

県連名	所属共同組織名又は事業所名	
岡山	岡山中央福祉会 友の会	
発表者氏名	所属と役職	分科会番号
ネギ カズコ 根木 和子	幹事	第6分科会

発表テーマ
心を伝えたい 絵手紙

内容（発言要旨）

〈はじめに〉
岡山中央福祉会並びに友の会との紹介と出会い

〈取り組み紹介〉
絵手紙の文化はまだ浅く今から45年ほど前、コンピューターの時代に反し、筆と墨を使い直筆で「絵のある手紙」として小池邦夫先生が立ち上げられた趣味の文化です。それが今や150万人に愛され増え続けています。絵手紙のキャッチフレーズは「下手でいい、下手がいい」。上手に書こうと思わないで字や絵が上手でなくても「心」を伝える手紙でありたい。これが絵手紙の原点です。この絵手紙教室を老人保健施設さくら苑りハピリセンターで、地域の皆さん、ご利用者の皆さんと共に友の会の班会の活動として行っている取り組みを紹介いたします。

〈おわりに〉

所属している組織の概要	
活動地域は人口9万5千人の岡山市東区の南部・西大寺地域。共同組織構成員は約3000人。6つのブロックと84の班、91名の世話人（機関紙の手配り配付）の組織規模。なお、母体法人は19事業所、480名の職員の規模で、地元西大寺地域で最も大きな事業規模を持つ。	
TEL 086-944-2266	メール sakuraen@iris.ocn.ne.jp

演題番号 6-2-6

県連名	所属共同組織名又は事業所名	
奈良	厚生会友の会	
発表者氏名	所属と役職	分科会番号
オガワ カズヤ 小川 和也、 ヤマベ レイヤ 山部 麗哉	友の会事務局長	第6分科会

発表テーマ
定時定点の健康チェック

内容（発言要旨）

これまでコロナ禍で縮小していた健康チェックについて

コロナ以前には17ヶ所の実施となっていたが、少しずつ再開や新規の要望などもあり、現在は12ヶ所での実施となっている。

また、健康チェックには地域のボランティアさんや市議、病院職員なども同行し、その時々の相談事などの受け皿作りも行っている。

今回はそういった取り組みの中でコロナ禍からの脱却を目指し、地域支部での取り組みや地域からの要望で増えつつある健康チェックの取り組みを報告したい。

このような活動については、地域の健康づくりやまちづくりには欠かせないものだと思います、報告することとした。

所属している組織の概要	
活動地域は奈良県中南和地域。活動地域の人口は約4万人。所属する共同組織の人数は約9000世帯。	
TEL 0745-22-2989	メール k-hayashi@kenseikai-nara.jp

演題番号 6-2-7

県連名	所属共同組織名又は事業所名	
愛媛	愛媛医療生活協同組合	
発表者氏名	所属と役職	分科会番号
ミヤケ アツオ 三宅 淳雄	生協宇摩診療所 理事	第6分科会

発表テーマ
オレンジルーム設立から始まる「つながり、づくり ～さあ、みながうらやむ居場所を一緒に作ろう！～」

内容（発言要旨）

- ①生協宇摩診療所を拠点に組合員活動を進めているが、2020年よりコロナの影響で事業所の利用が出来なくなった。
- ②そんな中で、事業所の診療体制が変わったことで組合員ルームが無くなった。
- ③事業所が使えない。人と会う機会が減る。細々とした活動期が続いた。
- ④ようやく制限付きではあるが、活動が再開された。しかし、組合員さんが気軽に集える場所が無くなっていった。
- ⑤代わりに公民館や集会所の利用が増え、つながりが広がった事は良かったが、気軽に使える場所とはならなかった。
- ⑥昨年の総代会事前討論会で、新たな組合員ルームの検討・要望があり、組合員さんの使われていなかった一戸建てを好意で借りる事が出来た。
- ⑦イスや机もない状況から他事業所の手も借り、徐々に使えるようになっていった。新たな組合員ルームを11の提案の中から「オレンジルーム」と命名。
- ⑧現在では、皆が楽しく集える場となり、健康カラオケ・健康麻雀・体操や趣味の場等々、全ての支部で利用がされている。
- ⑨特に良かったのが、今まで班会や集いに参加されていなかった方が参加するようになり、そこから増資や新規加入につながったこと。
- ⑩会議や学習会、更に最近では自治体との話し合いの場としても活用ができ活動が拡大している。

所属している組織の概要	
活動地域は、愛媛県四国中央市。四国の丁度中央に位置する当市は、人口約80,000人。対し愛媛医療生活協同組合員加入数は約5,000人。その中でも約1割の組合員さんが健康づくりやささえあいを通じてつながりを広げている。	
TEL 0896-25-0114 (宇摩診療所)	メール mi-itoh@ehime-med.org

演題番号 6-2-8

県連名	所属共同組織名又は事業所名	
香川	香川医療生活協同組合	
発表者氏名	所属と役職	分科会番号
タカヤス トミオ 高安 富男	龍雲支部 支部長	第6分科会

発表テーマ
組合員を点から線へ、そして面への広がり～カフェを通じたつながり作り

内容（発言要旨）

私たちの支部は組合員626名、機関誌の手配り率48%、支部運営委員8名、班数1班というとても小さな支部です。私は3年前に支部長に就任し、何とか支部の活性化を図りたく街角健康チェックや高齢者の居場所づくり、行政のイベントへの参加など努めてきましたが支部の活性化には成功していません。ある時仕事の関係で、午後2時ごろ〇〇珈琲店に入りました。そこには高齢者が席の半分ほどを占め、おしゃべりをしたり、コーヒーとケーキを食しながら楽しんでいました。私は医療生協の運動を一口に言って「体と心と社会を健康にする運動」と理解しています。いま求められているのは「孤独とストレスの解消」ではないかと感じたのです。地域コミュニティーセンターの広報誌を注意深く見ると「街角茶話会」、自治会単位の「サロン活動」などが好評でした。そこで運営委員会で新しい取り組みとして「仏生山カフェ」を開催することにしました。内容は、①気軽に集まれて飲み物とケーキがあり、お喋りと交流ができる。②お客さんではなく自ら参加できる。③個々に楽しただけでなくみんなで一緒に楽しむ。具体的には、組合員の作品展、手作りのドリンクとケーキ、テーブル交流、ハーモニカの演奏と合唱、等です。カフェを通じて生まれた成果は以下のとおりです。延べ参加者数143名、組合員増やし6名、増資延べ人数30名、額40,000円、カンパ28,641円、班と言うサークルの結成準備4（ハーモニカ、笑いヨガ、手芸、切り絵）、担い手づくり（運営委員4名、機関誌手配り2名）。このカフェを通じて、支部活性化の展望が見えてきましたので、この方向で引き続き取り組みを強めてまいります。

所属している組織の概要	
活動地域は、香川県高松市の南部地域にある仏生山小学校区で人口9,331人。所属する組合員の人数は626人です。	
TEL 090-9772-8264	メール tom10@zpost.plala.or.jp

演題番号 6-2-9

県連名	所属共同組織名又は事業所名	
愛媛	愛媛医療生活協同組合	
発表者氏名	所属と役職	分科会番号
アサダ タマエ 浅田 玉恵	うしおに支部 班長	第6分科会

発表テーマ
地域の中からつながりを広げ、誰もが参加しやすい支部活動

内容（発言要旨）

愛媛県南予地域には拠点となる事業所はなく、支部の範囲も1市3町と広い。その中で組合員に呼びかけて、健康づくりの体操教室を始めたのは2017年の事である。そこに集う人たちから口コミで一緒に体操をする人の輪が広がり、支部を結成し活動を始めた。支部の役員は、体操教室に参加する人で分担しあうことにし、支部長、副支部長、会計を輪番制にしている。みんなが役員をすることでお互いに協力し合う気風もできてきた。会計を担当してみて初めて、愛媛医療生協から支部や班に助成金というお金が支給されていて自分たちの活動を支援してくれていること、健康づくりを応援してくれることを理解できた、という発言があった。班に参加する組合員の中には、「せめて増資させてもらいます」と毎月増資を届けてくれるようになった人もいる。地域でのつながりを活かして、支部の中に「班」がどんどん作られ、今では16になった。組合員総数は200名余りだが、そのうち4人に一人は班に参加して活動しており、結集率は高い。もっと声を掛けて地域に健康づくりの輪を広げていきたい。

所属している組織の概要	
活動地域は、愛媛県宇和島市以南の4市町。活動地域の人口は約95000人。所属する共同組織の人数は約220人。	
TEL 089-990-8820	メール ooba@ehime-med.or.jp

演題番号 6-2-10

県連名	所属共同組織名又は事業所名	
徳島	徳島健康生協 那賀川支部	
発表者氏名	所属と役職	分科会番号
カワノ タカコ 河野 孝子	支部長	第6分科会

発表テーマ
那賀川支部の取り組み

内容（発言要旨）

2009年に南部支部から分割され那賀川支部が結成された。小さな支部であることをいかして運営委員会を中心に組合員の要求を聴きながら、楽しく誰もが参加したくなるような支部活動を行ってきた。

- * 手書きの支部ニュース
 - * 那賀川鉄橋列車爆撃を語りつぐ会（平和のつどい）
 - * 青空健康チェック（2か月に1回、道の駅）
 - * お接待（いつでも元気に掲載されました）
 - * 数々の学習会
 - * ウオーキング
 - * バスレク
 - * 診療所と一緒に健康まつり
 - * 認知症サポーター養成講座
 - * 高齢者大会、共同組織交流集会
 - * 花の寄せ植え
 - * ボッチャ
 - * 新年会
- etc

所属している組織の概要	
活動地域は徳島県阿南市那賀川町。人口約10600人。組合員数は約300人	
TEL 080-6394-4452	メール anan@kenkou-seikyuu.com